

【算数】

■児童の状況	・問題を正確に読み取り、そのうえでの確に処理することを求められる問題を解くことが苦手である。 (低学年) ・長さ、かさなど、単位にかかわる単元は、理解までに時間がかかる。 ・ちがいを求める文章題が苦手である。 (中学年) ・図形やデータの活用に関する問題を苦手とする児童が多い。 (高学年) ・図形、測定(割合)、変化と関係の領域の問題が苦手な児童がみられる。
■指導についての課題	・自分の考えを整理し、何らかの方法で表現する経験を積み上げていく必要がある。 (低学年) ・普段の生活の中で既習事項を活用するような機会をつくり出し、定着させていく必要がある。 (中学年) ・図形などは日常生活で使う機会が少ないため、繰り返し既習内容を確認する必要がある。 (高学年) ・領域が多岐に渡り、学習内容をおさえるのに時間を要するため、反復学習をする時間が確保できない。
■授業改善に向けての具体的な方策	・問題を絵や図、数直線図などで整理し、そこからわかる内容を活用して問題を解く経験を積み重ねる。 ・ペアやグループでの対話や全体での意見交換を通して、自分の考えを再構築できるようにする。 (低学年) ・算数科の他の単元や生活科の活動の中などで、意図的に長さやかさを考えさせる場面を作り、量感覚を育てる。 (中・高学年) ・授業の最初に前時の内容を振り返る活動や既習内容を確認する問題を解く活動を取り入れる。